

庄内麦情報

第1号

令和3年3月3日

庄内総合支庁 産業経済部

農業技術普及課

TEL (0235) 64-2103

FAX (0235) 64-2104

雪の経過と麦の生育

平坦地での長期積雪期間は、平年並みの63日となった（平年値+4日、水田農業研究所より）。中山間地域では、例年より積雪開始が早いため、小麦の生育量は少なくなると予想される。3月1日現在、大麦（シュンライ）の幼穂長は0.5mm以下、小麦（ゆきちから）では幼穂は確認されていない。

融雪期追肥

融雪期追肥により、有効茎数（穂数）・一穂当たりの着粒数を増加させることで、収量の向上が図られる。平坦地の大麦では間もなく融雪期追肥の適期となり、窒素成分で4kg/10aを目安に行う。一方播種が遅れた圃場など、生育量が少ない圃場では窒素成分で6kg/10aとする。また小麦では融雪後なるべく早く施用する。

融雪期の追肥の目安	大麦（シュンライ）	小麦（ゆきちから）
施用時期（幼穂長1mm～節間伸長が始まる頃）	3月6日頃	融雪後なるべく早く (下記のように融雪剤を活用する)
施用する窒素成分	4 kg/10a (硫安の場合 現物約20kg/10a)	6 kg/10a (硫安の場合 現物約30kg/10a)

※ 速効性の窒素肥料を施用する。地力が高く、例年倒伏がみられる圃場では施肥量を減らす。

融雪対策・排水対策

現在雪が残っている地域ではてんろ石灰等（目安：40～60kg/10a）を散布し融雪を促進する。

また、越冬後の分けつ期に停滞水が続くと、地温が上がらずに生育が抑制され、下葉の黄変や分けつ及び根量の減少などの症状が出る。そのため明渠を活用して水が停滞しないようにする。

